

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)

バイオインフォマティクスとシステムズバイオロジーの国際連携教育研究プログラム
ワークショップ参加レポート

Name : 西村 陽介
Title : IBSB2012 への参加報告
Workshop report: <p>私はこの度、2012年7月22-26日にかけてボストン大学において開催された”2012 International Workshop on Bioinformatics and Systems Biology (IBSB2012)”に参加し、”Comparative and functional analysis of intragenic miRNAs in metazoan genomes”という演題でポスター発表を行った。</p> <p>このワークショップは京大、東大、ボストン大学、及びベルリンの幾つかの大学を中心としてバイオインフォマティクスやシステムズバイオロジーの研究に関わる学生や若手研究者を主体とする発表と交流の場として毎年開催されている。私は京都、ベルリンにおいて開催された一昨年度、昨年度において口頭、ポスター発表を行ったのに続き三年連続の参加となり、前回までに交流を持ったベルリンやボストンの学生と再会し、また今回が初めての参加となるメンバーとも話す機会を得ることが出来た。報告者は昨年度本プログラムの支援によってフランスに滞在して研究の幅を広げる機会を頂き、英語で行われる会議に対して場慣れしてきたこともあってか、他の参加者の口頭発表を以前よりも余裕を持って聞くことが出来るようになり、自分の研究領域とは異なる発表に関しても理解力が上がっているように感じられた。報告者はポスターセッションにて様々な人に質問を受けたが、ボストン大学の学生が miRNA についての解析を行っており、解析手法や実際のデータに関しての意見交換を行うことが出来た。その際に多少複雑な内容になると上手く説明をすることが出来ないことがあったため、英語で端的な説明を行えるよう十分な訓練を積んでおく必要性を感じた。他の参加者の口頭発表に関しては、非常に良くまとまった発表を行った海外の参加者がおり、質の良い発表を行うために日頃から高い意識を持って準備を行っていることが伺え、大いに刺激された。またワークショップの最終日には教員の方々により研究室で行われている研究内容についての紹介が行われ、この研究領域の今後の動向を考える上で大変参考になった。</p> <p>ボストン大学の関係者の方々の歓迎は素晴らしいもので、トロリーバスツアーにてボストン市内観光を行ったり、ボストン湾クルーズの際に離島にてロブスターを振舞われ、島から美しいボストンの夕暮れを見て感銘を受けた。このように親睦のための催し物が連日あり、食事に関しても毎日3食とも全てワークショップ側で準備されたものを食べる事が出来た。宿泊については先方に用意して頂いたボストン大学のドミトリーに宿泊したが、立派なホテルのように設備が充実しており非常に快適な滞在であった。またボストンにはハーバード大やMITといった世界最高峰の大学があり、これらを見学することが出来た。このような貴重な経験を積む機会を与えて下さった先生方に感謝申し上げます。</p>